⑯東京キングダムセミナー20240113

賛美：10：27.79 まで
祈り：12：32.85 まで

前半：

はい、2024 年の 1 月 13 日、16 回目のキングダムセミナーを始めます。前回、12 月 9 日は、キリストの再臨と言うことについて、触れていました。それを皆さん、聞かれましたでしょうか。

今日は、セミナー本の**パート 4「関係」である「神の国」**に入ろうとしているところですが、・・・92 ページに、**【争点である「パルーシア」】**という小見出しで、またここで、「パルーシア」のことが、書いてあるんです。これを何で、**パート 4 の「関係」である「神の国」の中で、取り扱っているかと言うことを思い、どうぞ考えてみて下さい。**

これまでセミナーで話したことを大まかに振り返っているわけですけれど、皆さん前回、聞かれてどうでしたか？皆さん、ビックリされましたでしょうか。うなずいている方もいらっしゃいますね。そうでしょうね。これまで、皆さんが聞いてきた内容と、同じではないかもしれないですね。そうだと思います。私も、20 代の半ばまでは、これまで聞いてきたことを、そのように考えて自分もそこに置いていました。

ところが、「ちょっと待てよ、これも・・・」と言うふうに、だんだんと、読み方、見方、受け取り方が変わって来ても、「そうですよ」、何年間は、その中でまごまごとしていました。本当に、すぐに「分かった」とか、「受け入れられた」とか、言うものではなかった。だから、これを録音で聞いた方がね、「今までと違うんじゃあないの？」と、思ったかもしれない。けど、**どうぞ、今の受け入れられるところだけ、「うんうん」と、心にとどめておいてくださって、大いに結構です。慌てて、「これが、ああだ、こうだ」というのは、そんなのは無理です。長く親しんできたことですから。**

ですから、この本にも書いてあるんですけど、「**いつか、この再臨のことについて、ゆっくり話せたらなぁ」と、思っています。本当にそうなんです。**だから、神の国とは何かということの中で、どうしても再臨の教えに触れなければならないからです。だから、いつかこの場でなくても、別の場所で、「**キリストの再臨**」について、聖書を開いて、皆さんと、じっくりと、時間を取って確認しながら、―――1 回や 2 回では済まないと思いますが、―――集中的に、聖書から確認しながらいけたらなと、望んでます。0：16：46.70

だからね、簡単にね、1 時間、2 時間で、「こうこう、こうですよ。分かりましたか。・・・そうですよ。」と言う訳には、いかないんです。だけど、皆さんが考える一つの、「取っ手」、掴みところ、そういうものさえあれば、ご自分で、調べることが出来るし、思い巡らせればと思いましてね、ハイ。どうぞ、ご理解くださいませ。

要は、私がキングダムセミナーで言っているから、どうのこうのと、言うのではなくて、**聖書から、どうなんだというところなんです。**伝統的にこう言われたっていうけれど、私は、今まで聞からされていたことが、伝統的な論理だとは、思っていませんから。それさえも、近年、近代になってから、出てきているものですから。**そこをもっと広い、柔らかい思いで、もう一度、聖書に向かったら良いと思います。**いいですね、それで、今日の話にもつながっていきますので、この 92 ページ、ちょっと、聞いてください。

それで、今日の話の「**関係である**」というところの本論は、前半で触れられるか、後半に入るかですから、初めのところは、ゆったりと、柔らかく、聞いてください。0：18：42.89

では、「**関係である神の国**」というところの本論に入ります。92ページに、こう書かれています。

【争点である「パルーシア」】

前々回、「再臨」と言う言葉に使われている5つの単語についての説明で終わりました。聖書をギリシャ語で調べることができる方ならば、この5つがそれぞれどういったところに使われているかを、すぐに見ることが出来るでしょう。そして、その上で全体を眺めれば、あのように非常に興味ことになるのです。

ただ、前回紹介した基本的ラインに、驚きを持った方も多いいかもしれません。「来臨」とか「到来」と訳されているギリシャ語の「パルーシア」は、厳密には、「臨在」でした。従来、この「パルーシア」と言う単語を「携挙」あるいは、「地上再臨」の一瞬にすべて押しこめてきたために、再臨の奥義がとても浅薄なものになってしまいました。「パルーシア」は、それらの出来事とは、別に起こる「一期間」です。“終わりの時代（完成の時代）”の「パルーシア」の期間に私たちの王なるキリストはやって来て、その臨在を現わされます。そして、まさに、いま、私たちが生きている時代が、「パルーシア」の時なのです。かつてのどの時代よりも、私たちは、霊の眼を見開いて、この時代に起こるべきことを預言し、この時代に成るべき神の息子・娘の姿へと突き進むべきなのです。0：20：18.36

↑ここで言っていることは、単純なことですけど、・・・前回言っていることを簡単に言っているわけです。ギリシャ語の「パルーシア」は、このことばは、新約聖書中に、20何回か、あるんです。そのうち、「来臨」、「到来」とか「来る」とか、ある時には「「再臨」、「再び来る」と言うふうに訳されているのです。**あたかも一瞬の出来事のように連想させるけど、**本来、「パルーシア」は、王が到着して「滞在する一期間」を指すものですから、・・・「パルーシア」は、一瞬ではないんです。

もともと、**イエス様は、「世の終わりまで、わたしは、いつまでもあなたがたとともにいる」**とおっしゃって、天に上がって行かれたわけでしょ。**だから、初めから、主は、ともにいらっしゃる**んで、間違いないんだけれども、その後で、教会時代が始まって、その後の主との歩み、教会に歩み、と言うものが、紆余曲折だったんです。

なので、どうぞ、偏ったがっちりとした見方から離れて、フラットに歴史を眺めて下さい。教会が出来てから、2000年以上たちます。でしょ。この2000年と言うこの年月の、今、私たちはこの果てにいるんですけど、この「再臨」とか、「終末の出来事」と言われてきたものを、我々は、全部、これから先の未来に押し込んでいます。ですよね、その見方です。

それじゃあ、この2000年の出来事には、なにが起こったの？何だったのか。

使徒ヨハネは、手紙の中で、「反キリストは、すでに世に来ている」（Ⅰヨハネ4：3)、「大勢世に来ている」（Ⅱヨハネ1：7)）と言っています。ヨハネ自身が、教会に受け入れられなかったんです。ヨハネ自身を教会に入れてくれない教会が現れた。ヨハネは、そう言っている。それでも、使徒たちが生きているうち、そしてその影響力がしっかりあった時は良かったんです。ところが、初代教会の使徒たちが、全部いなくなった時から、この世

は獣が多く現れる。そして、ローマ教皇、中世の暗黒の1000年間が到来する。あの時代は、「じゃあ一体何だったんだろうか」と言うことになる。2000年の歴史の中で起こったことを、今、私たちは知って、今救われて、・・・これからの将来しか見てないけれど、**この2000年の歴史の中に起こって来たことをじっくり、まじまじと振り返ってみると、これは、そんなに無視してはいられないことなんです。**

マルチン・ルッターが、ローマ教皇・組織を見た時に、「我が民よ、バビロンから離れよ。」と言って、彼は決心した。けれど本当は、ルッターだけじゃなくてもっといるんです。ジョンフスとか、もっといろんな人達が、ルッターよりも100年前から、そんな声を上げていたんです。ところが、片端から捕まえられて、処刑にされていくという、そんな時代が、予備的に続いてきたわけよ。それで、ルッターが起こしてきた「**宗教改革**」と言うのは、・・・宗教改革と言うのは、世俗的なネーミングで、本当は、「**信仰改革**」でした。「信仰とは、何なのか」、「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ、・・・だから、我々が、今生きている今日と言う時代は、患難時代の入り口にいるのだ！」とか、「もう、キリストが来ようとしているその時にいるのだ」と言う**その前に、ハッキリしなければならないのは、私たちは、あの大患難の中にいるというよりも、入っていくというよりも、これって、**我々は、教会、信仰回復のただ中にいるのです。

それを、いつしか、獣も患難も我々の**未来にある**のだ、これから我々は、苦しい所に入っていくんだぞと言うメッセージが強調されてきたんです。そして、**「何が回復されて、これから、何の回復に向かって行くのか」と言うことに、クリスチャンたちの目を向けさせないようにしたんです。そういう中に、はまっているんです。**

だから、**その点をもう一度、虚心坦懐的に聖書を読もうじゃあないか**と。もう一度、じゃあ、旧約から、新約に至るまで、「神の持ち運び」って、何なのか。そして、「神の聖徒たちの役割」って、何なのかと言うのを見れば、分かれば、開かれてくれば、今日と言う時が分かり、我々が何に向かっているのかが、また違った目で、見えて来るのです。ハイ。0：27：43.04

だから、「大患難の獣が、我々を待ち構えているのだ。」と言う、それよりも、そりゃぁ、患難の時代というのは、いつの時代もありましたから・・・**でも、我々が本当にどこに向かっているのか、何を見るべきなのか、われわれが、どうなっていくべきなのかと言うことを、もっと、大きな目を開いて、見るべきだよと。いうことなんです。**ですから、信仰回復のただ中にあるから、このキングダムセミナーもあると思います。

それで、**「信仰回復」**と言うのは、あの宗教改革の時に活躍した人たちが、**「恵みによるんだ」、「信仰によって、我々は神と歩めるんだ」**と、いうことを言った。**それを皮切りに、あの時代から、どんどん回復してきた**んです。ジョン・ウエスレーが、「**聖め**」っていうことを言った、「**魂の聖めがやって来たんだ**」と言った。それから、いろんな回復がやって来た。29：26.44

「**使徒、預言者の回復**」と言ってきた時代もあった。で、「ペンテコステ、聖霊の注ぎ」が始まった。**それは、ルッターの「信仰改革」以降です。そして20世紀に大きな回復がどんどんされてきて、21世紀の今があるわけです。**

⑯東京キングダムセミナー20240113

「預言の回復」、それは、聖霊のバプテスマから異言が出て、異言の回復とともに、預言が回復してきたんです。それで、皆さん、個人預言と言うのを良くされました。それは、今でもします。けれど、預言と言うのは、「未来のことを何が起こる、これが起こる」と言うことだけではありません。

神は、その人自身に神のことばを語ると同時に、その人とは別の人がその人へのメッセージを預かって、その人に神のことばを語ることがあります。「勧め」のことば、「確認」のことば、「教え」のことば、そういうふうに普通に我々が語っているような言葉が、「神の預言」、「神から預かった言葉」として、個人的に語られる場合があるんです。31：13.27

使徒パウロは、「異言を止めてはならない」「私は、誰よりも多くの異言を語れます」と、言っていますが、でも、その一方で、パウロは、「異言を語るよりも、預言をしなさい」（Ｉコリント 14：5）と言っています。そこに、進展があるわけです。異言は、個人の徳を高めます。けども、預言は我々、共同体の徳を高めます。だから、その意味で、預言をすべきなんです。

何か霊を感じて、恍惚となってしゃべることが、預言ではなくて、普段集会で、今私がしゃべっていますけれど、これも預言の領域の中に、あるべきなんです。あるわけなんです。そして、その中で皆さんが応答しますよね、コメントを発する。それも、預言になるわけです。だから、「みんなが預言しなさい」と言っているわけです。

ですから、何よりも、このキングダムセミナーの最初の方（Ｐ６－１１）で取り扱う「神のプログラムの啓示」、1 コリント 12、13 章の教会の 3 段階のところで、個人的な信仰のレベルから、キリストの体になるという第 2 段階、そして、神の働きに乗り出していくという第 3 段階がある。という、それもパウロに示された「発展」なんです。「回復」なんです。「進展」なんです。

だから、我々は、そこに入っていくべきだということです。そういう、進展、神の回復、神の民の成熟と言うものを、明らかに示している。被造物のすべては、神のこの「現れ」を待ち望んでいるんです。神の赤ちゃんの現れではないよ。「神の子」、成熟した息子、娘の「現れ」を望んでいるんだと言っているわけです。

その成熟した息子、娘に我々は、踏み出していかなければならない。そこに我々の残された大いなる「伸びしろ」があるわけです。

「キリストに似た者になる」「キリストの体に結び付いたものとなる」と言うことは、ただ、生まれたばかりの乳飲み子でいつまでもそこにいてはならない。乳飲み子が、少年になり少女になり、青年になり、成人になっていくんです。

そうしたら、私たちは、こう考えますよ。「そうか、集会に慣れて、賛美が上手になり、賛美が作れるようになり、奉仕が上手になり、伝道が出来るようになったら大人だ」と。そりゃ、良く慣れてきたら、そう思うかもしれない。けどね、少年には少年の見れる領域がある。でも、青年には青年に見えてきた領域がある。成人には成人の見えてる領域と治めること、任される責任があるんです。ただ単に奉仕の作業が、宣教活動になれるからと言って、成人なのか。

⑯東京キングダムセミナー20240113

成人と言うのは、ヨハネの手紙の中で、ヨハネが言っていますよ。「初めからおられる方を知ったからです。」（Ⅰヨハネ2：13-14）と。「初めからおられる父のことを、あなたは、理解した。悟った。」ということを言っているわけです。「子供たちよ、あなたがたは、父を知ったからです。」と書いてある。**「父を知る」ということと「初めからおられる方」を知るということは、違うんです。**「意味は一緒じゃあないか」と、思うかもしれないけど、違うんです。36：18.61「天の父がいる」と、幼子が、「ああ、パパがいる」と言う段階と、成人になって、全て相続できるようになって、「初めからおられる父の心を全部、知る」と言うのとは違います。単に「父を知っている」と言って、幼子が「お父さん」と呼ぶレベルとは、違います。

それからその続き、**「若い者（青年）達よ」**と言って、何と言ってるかと言うと、「あなたがたが悪い者達に打ち勝ったからです」と言っている。悪い者達をやっつけることが出来るのは、成人じゃあないか」と思うでしょう。(笑) 確かに。成人は、悪いものをやっつけるんだけど、青年たちと言うのは、血気盛んで、血が騒いで、(笑)「この野郎ー！」と言って、悪いサタン、悪霊に食ってかかって行こうという勇ましさが確かにある。それは大いに結構ですけど、**まだ、父たちのように「初めからおられる方」の心を、その心にある、その「絵」をあなたがたは、全部知らない。あなたがたは、敵に打ち勝つことで、燃え上がっている。**

そういう時期もあっていいんですけど、でも、キリストの体、聖徒たちの中には、乳児、幼児、子供、青年、成人、そのそれぞれの過程の人たちが、わんさか、いるわけです。0：38：19.55

だから、**我々は、どの世代、どの時代に、どういう成長レベルに到達すべきか**を、子供ながらに大人を見ながら、見上げながら、「ああ、あのお父さんのようになれるかな」「あのお母さんのようになれるかな」と思いながら少年少女は過ごし、大きくなっていくわけです。**そして、やがて、その父や母たちを超えていくのです**。そうなっていかなければならない。そう言うことですね。39：07.33

それだから、「パルーシア」という一期間、そのね、おわりになるほど、回復が濃厚になって来ています。あの「信仰改革」以来。16世紀、17,18,19,20世紀と、その「パルーシア」のキリストの臨在が成熟し、成長させようとして、濃厚になってきています。その歴史の水位を現代生きているクリスチャンは、あまり知らない。

注意してみることさえなければ、・・・でも、そうなんです。**我々、この21世紀にそのどういうところに生きているのか、もう一度、しっかりと、知るべきです。**

それで、この濃厚になっていく「パルーシア」の期間に、何が起こるかと言うと、この前、ギリシャ語で示しました「ファネイロ」ということば。「現れ」それから、「啓示」。―――**「現れ」と言うのは、「キリストが天から、本当に肉体を持って現れること」を示しません。**ただ、我々に、必要な時に必要な啓示のために、キリストは現れる。そして、我々の目を開かれる。啓示されるということが、この濃厚な「パルーシア」の時に起こるんです。0：41：00.04

今、我々がここで話しているようなことをね、マルチン・ルッターやジョン・ウエスレーやフスが知ったら、ビックリですよ。彼らは、その時代にそこまで言ってないですから。「ええー！あんたたち、そこまで」と言って、・・・そうですよ、それぐらい、我々は、もう過去を超えて、凄い時代に入っているんです。

⑯東京キングダムセミナー20240113

イエス様が復活して、弟子たちの前から天に昇って行かれるときに横に天使たちが現れたでしょう。で、天使たちが、「**あなたがたは、なぜ、天を見上げているのですか。**」(使徒1：11) と言ったじゃないですか。そりゃ、そうですよ。天に昇って行かれたんだから、天を見上げて立っていたんですよ。そしたらね、「**あなたがたの主はね、あなたがたが昇っていかれるのを見たと同じありさまで、来られるのですよ。**」と言われました。で、そのことばを、皆さん、どう、受け取りますか。

このラインで、聖書は簡単な言葉しか使わないんだけど、「天に昇って行かれたと同じ有様で、またおいでになる」と言うことは、天から、またふわーっと、また見えて、目の前に現れるのだと、言うことでしょ」と、言うことになっちゃいます。でも、「イエス様が現れる」と言うのは、初め、復活されて、弟子たちの何人かに、順番に現れたでしょ。で、合計したら、500人以上の弟子に現れたと。そして、イエス様が、生きておられることを示されたと。そしてまた、現れて、**弟子たちは、気が付かない場合もあった。でも、イエス様は、その弟子たちのまえに姿を現しているんです。**それが、「主の現れ」です。公然とした、全ての人の前に現れたんじゃない、密かに、必要な人に、必要な時に必要なことを持って、現れたんです。

その後で、天に引き上げられて行かれたんです。主が来られて、主が引き上げられていくというのは、弟子たちの前で、ふわーっと上がって行かれた。それだけを指すのか、ここは、大問題なんです。「引き上げられていくのを見た」と言うけれど、その前に復活したイエスを、大勢の人たちが、見たんです。見た後で、一つのところから、引き上げられたんです。それと、同じように来られるんです。

つまり、昂然とした誰もが目をみはる現れではなくて、500人の弟子たちの前に現れた時は、ラッパの声もない、大きな叫びもなかったんです。すんなり、**弟子たちがわかるかわからないかのレベルかも知れない。それでも、弟子たちの前に現れたんです。弟子たちが、後から目が開かれて、「あれは主だ」「これは主だ」と分かったというね、そういう現れ。**0：45：32.24

「パルーシア」と言う期間の中に、究極的に一瞬に主がパッと現れることばっかりを連想する発想の中に私たちは、生きてきました。けれど、「聖書が言っている幅の中には、決して、そればっかりじゃあないよ」と言うことです。パルーシアの中に、我々の中に、これから必要なことを掲示するために、「イエス様が顕れる」ことを期待しましょう。0：46：13.26 96

これまで起こって来なかったけれど、これからの濃厚な時代に、我々に必要なものを主が用意して下さる。ただし、それは、もう一つ、ここにはあまり書いていないけれど、重要な概念は、「残りの民」と、旧約の時代から、しきりに言われていることばです。神は、「人を造り、生めよ、増えよ」と言って、この世界中の多くの民を見てきました。けれど、その中に契約の民を造りました。でも、契約の民と言われながらも、徐々に形骸化し、神と歩むという、生きていた心も枯れ果てていく。そんな時代の中でもさらに神の契約に目を見開いて、腹に受けて、その契約の実現を信じて渇いて、手を伸ばして、食らいついて、それを真剣に待ち望む人たちを、残しておられるんです。それが、ノアであり、アブラハムであり、モーセ達である。イスラエルの民の中でも多くは、「契約なんかしるか」「水をくれ、肉をくれ」と言って、生きている民がほとんどです。それも契約の民の中にあるんです。

けれど、「残りの民」と言うのは、神が後の預言者を通して、イスラエルに「残りの民を用意している」と、叫ばれてきた民のことです。

だから、何十万、何百万いても、一斉に、啓示によって、目がパカっと、開かれて、「わー」となることは、ありえなかったわけです。ある少数の人たちに、啓示をもたらせたのです。その人たちの渇きを生かして、残りの民に主は、油を注いで、そして、引っ張って行かれた。それが、集合人格ですよね。

そうなんです。だから「神様、私は一生懸命歩みますけど、あの人たちを何とかしてください」「あっちみて、こっち見てでは世俗的で、何にもならないんです」と言うことはないんです。そんなの昔からそうだから。
要は、目を見開いて、今、耳に聞いているあなたが、・・・「これから何に向かって、どこに向かって歩くのですか」と、それが、今、あなたに問われているんです。他の人を非難して、指さして、「ああだ、こうだ」というのではないんです。その人たちと一緒にいていいんです。でも、その人たちの中で、あなたが、どう、歩むんですか。」というところが、問われているんです。「残りの民」というものに、今、「パルーシア」のこの時代に、心渇けば、口を開ければ、主は啓示を注いでくださって、分からして下さるんです。そうでしょ。0：49：42.53。

去年の今頃どうでしたか。皆さん、今日ほど、何か、わかりましたか？（笑）そうですよね。1年前、2年前3年前、今ほど、開かれていなかったといえる。それと同じです。じゃあ、我々は、来年はどうなっているか、2年後、3年後は、どうなっているか。今日というこのレベルではないと思わないといけない。いつまでも、来年も再来年も私はこうじゃあないと。「今日思うより、もっと進んで、もっと見えてるぞ」と。見えたら見えたで、出来ることが分かるんです。見えたら見えたで、何に油注がれ、自分で手を付けるべきかが、分かるんです。
そういうことを、しっかり目を開いて、見ていましょう。50：55.78

それで、92ページの上から3段目のところから、読みますね。
しかし、こういった話を聞いたとき、ある人々が持つであろう驚きと戸惑いを私は理解しています。なぜなら、「パルーシア」を「臨在」と訳し、「すでにキリストは臨在している」と教えているグループが活動しているからです。そうです、「ものみの塔（エホバの証人）」です。←ハッキリ書いちゃった。
彼らの指導者は、「パルーシア」についての啓示の一部を得ましたが、今度は逆に再臨の奥義を「パルーシア」で完了させてしまい、残るは「審判」のみにしてしまいました。←言っていること、分かりますか？
それによって、かえって神の国の豊かさを失い、御国への自由な応答は、裁きに対する恐怖心と条件主義へと変質してしまいました。こういったグループの活動によって、人々は「パルーシア」の啓示に対して嫌悪感を催すに至ったのです。サタンは、神が御国の啓示を子供らに解き放つのを知り、このように悪しき先入観を植え付け、来るべき啓示に対して無感覚にさせることに成功したのです。それは回復の歴史の中で、サタンのとる常套手段でした。サタンは、イサクの生まれる前に、つねに「イシュマエル」を生まれさせてきました。この時代における彼らの働きに、不思議な油注ぎがあるのはそのためです。（イシュマエル現象）52：30.77

↑これ、「パルーシア」だけじゃあ、ないんですよ。もっと、いろいろあります。さっき、「ファネイロ」、キリストの「現れ」

と言いましたよね。じゃあ、もう、分かるでしょう。20世紀の後半、もっと前から、聖霊の注ぎの中で、「キリストの現れ」ということが、よく言われました。

それで、「キリストが本当に目の前に現れた」と言うんです。「パルーシア」だから、そうだろうと言うんだけど、でも、いいですか、**「キリストが現れる」と言うのは、世の造られる前から、そして、黙示録の終わりに至るまでの神が啓示したい重要な事柄を、更に顕わにするための重要な場面ですよ。**それをね、18.19.20世紀に、「キリストが現れた」と言っているそのことをつぶさに見ていくと、・・・そんな中心的な真理のときの場面ではなくて、**本当に1つの危機の時とか、あるいは、誰かが祈って、一つの宣教の場面とかで**、いろいろなんですけど、それを現れを経験したという、**その経験した後ですよ。問題は、**・・・。その経験したと言うことを持って、キリストは現れて、こう言われたんだ」と言って、新しい一つのグループを立ち上げて、出来ていくんです。54：54.77

それで、そのグループの結ぶ「実」がいいかと言うと、・・・結構、偏った考えで人々を先導し、キリストを見たというその人を崇める、そういう「ムーブメント」が出来上がって来るんです。だから、後の時代になって、ちょっと待てよ」と言って、あの「キリストの現れ」を見たというのは、「何だったんだ？」と言うことです。要するに**「キリストが現れた」ということの重要性と深い意味を　探索できないままで、それを受け止めることが出来るまで人々が成長していないのに、キリストが今の時代に「私に現れた」と言うことで、その人の権威づけ、つまり、その人を一つの集団の指導者に祭り上げてしまう結果になっているんです。**でも、18世紀、19世紀だけじゃあないですよ。この聖書の時代から、そう言われていた。だから、あそこにキリストがいる」「あそこに誰々がいると言っても、出て行ってはならないんだと。ここで言う、「パルーシア』の中の「キリストの現れ」と言うのは、そういうふうに、誰々の一つの集団を、一人の人間を、奉り上げらせるものではありません。

ですから、キリストが「現れた」「見た」と言うけど、よーく、注意してください。その現れた現場で、何が一番、何を中心にしているか、その中心にしているメッセージやことばが、この聖書の啓示に、ぴったりと、そっているか、神の国に矛盾はないか、」と言うことを、しっかり吟味できる、大人になっていなければなりません。**「現れた」というだけで、もう、それに打たれ、それに殺到してしまうかもしれない。**

これからもそうですよ。「キリストの現れ」と言うのは、前に言いましたけれど、私たちの内に御霊が降りて、キリストが住むという、「相互内在」の真理の中で、我々の成熟は、まず、我々の人格の中を通して、キリストが、「ファネイロ」する。現れるんです。**ですから、どこか、キリストを外に求めよう、外に求めようとするのは、それは、段々、相互内在の真理から遊離していきます。**我々の内にある“メッセージと真理”が現れ、来るキリスト・イエスに、違和感なく、馴染んで受け入れられるものでなければ、なりません。

ですから、サタンはキリストの現れる「パルーシアの時代」をよく知っていて、サタンもキリストに化けて、キリストに装って、現れようとしますよ。**「イシュマエル現象」**です。だから、それをⅡコリントの11章（4節）で、パウロは、**「別のイエス」**と言っていますだから、**あの時代から、あったんです。**それは「別のイエス」、我々の知っているイエスではない。だから、**「パルーシア」の時代に、今、起こる、これから起こるという、見見分けられる自分に、私たちは、前進しましょう。**パウロは、は、**「そのことを吟味しなさい」**と言っているんです。

⑯東京キングダムセミナー20240113

そして、もう一つ、ヨハネは、「それらの霊が、神からのものかどうかをためしなさい。」（Ⅰヨハネ４：1）と、言っている。根本的に、「自分自身」を吟味しなさい。自分を吟味して、そして、周りに起こっていることを吟味しましょう。もし、自分にキリストが現れたとしたら、「ねぇ、ねぇ、私、イエス様を見たのよ。」と、

あわてて、lineしない。（笑）拡散しない。（笑）いいですか。あわてて、スマホに手が伸びるけど、そうする前に、じっと、吟味することです。

そして、見えたなら、見えたで、「これは何のために見えたのか」、「何のためですか、主よ。」「何を語ろうとされたのですか」「僕は聞いております。」「主よ、語って下さい。」そういうふうに、出なければならない。そして、自分の中で、ある程度の答えと納得がいったら、いいですか、自分と同じレベル以上の信頼できる人のところに行って、「実は、こうこう、こうで見たんだけど、これについて、・・・。」と、そこに、共感と確証を求めるんです。そして、共同して共に歩むことです。そう言うことが起こったからと言って、おしゃべりしない。はい、こういうところを、抑えておいて、今日の主題に入りたいと思います。1：02：57.99

だから、今のパルーシアの時代だからこそ、「個々の聖霊の現れ」云々と、言っているのも大事です。ある意味、もっともっとそこを具体的にやらないといけないかもしれません。でも、この本の中では、そこを、すっ飛ばしているんです。またこの場でなくても、他の小さな集まりでもいいので、皆さんが関心があるのであれば、そこを進めましょう。一つのセクションは、さっき言ったようなことです。じゃあ、「キリストの再臨は何か」について、聖書からじっくり目を見開いて確認していく、そういう時が持てればいいなと思っています。

もう一つは、「聖霊の賜物の使い方」についてです。異言の祈り方。異言の扱い方。異言の解き明かし、そういうものをどう取り扱うか、それから個人預言、相手に対して何かメッセージが自分の中に起こって来たらどうするか。

もう一つは、「受け方」について。必要でしょ「主からあなたはこう言われていると思います」と、言われたら、どうしますか。ね、「悪霊の追い出し」について。「癒し」について。このパルーシアの高まっていくことの中での癒しとは何なのか、昔のままの癒し、癒しで、いいのか。そんなセクションが、必要だったら、やれたらいいなと思っています。そこを吹っ飛ばしてなんだかんだと言っても、足が浮いちゃうかもしれない。

そして、大事なことは、「神の国」を見失なわないことです。神の国は、キリストの再臨の後の時代だと、究極的な神の時代はね。そういう意味で書いてある箇所もあるんです。けど、もう一方、私たちが生きているこの時、我々の内にある神の国、我々の間にある神の国がある。今の神の国を見失っておいて、見えないで、その日その時の究極的な極致の神の国を受け取れると思いますか。・・・そんなこと言ったら、また怒られてしまうかも知れませんが、私たちは、心しないといけませんよ。

私、半分冗談で言いますけれど・・・、「今、神の国に生きないで、死んだら神の国に行けると思うなよ。」と、以前、そう言ったら、「なんて、ひどいことを・・・」と、「そんなことを言っていいのですか」と、怒られましたよ。今、神の国に生きていないのに、死んで神の国に行けるんですか。じゃあ、早く死んだ方が良い

ということになるじゃあないですか。私たちは、今、生きていて、「御国よ、来たらせたまえ」と、祈っているじゃあないですか。その御国って、何ですか。

そうなんです。これを明確に見ないで、異言が流暢なものとなっても、預言が流暢なものとなっても、悪霊追い出し、癒しが出来ても、―――あるべきものが無かったら、どうするんですか。聖書は、最初からそれを、しっかりと、根底において語っています。―――

93ページの真ん中の段を読みます。1：07：41.44

【今の御国か将来の御国かではなく】

さて、前回の中で大切なポイントは、「神の御国が「関係」にある」と言うことでした。（←これはすでに言っています。）

「関係」とは、「神の王権を行使する」と言う関係です。

「御国は、神の権威に基づく関係にある。」

「御国は、神の持っている王権による互いの関わりの中にある。」

何度も、何度も霊の感性を集中させて思い巡らせて見て下さい。あなたの心に御国の実現が開けて来るでしょう。

でもある人は、「ちょっと待てよ。これはあまりにも“未来”の御国に対比しての「現在の御国」を強調しすぎではないか。」と考えるかもしれません。しかし学びと黙想が進むうちに、この啓示は、「現在の御国」か「未来の御国」かなどと言った虚しい議論や迷いを超越しています。私たちが、『永遠の神の国』を「今日」と言う日に見失った時、「批岸か？彼岸か？」という議論が始まるのです。

その次の94ページ

【王権による関係】

では、それはいったいどのような関係なんでしょうか。「王権」といっても誰に、どのような権威を行使する事なのでしょうか。この質問こそ、私たちが「神の国」そのものになっていくための鍵なのです。「関係」は、幾種類も存在します。

“あなたと父なる神”との関係
“イエス”との関係
“聖霊”との関係
“サタン・悪霊”との関係
“兄弟姉妹”との関係　　・・・もっと言えば、
“あなた自身とあなた”との関係　　それと、
”天地万物、大自然“との関係　　とも、言えるかも知れません。

⑯東京キングダムセミナー20240113

このように、それぞれの「関係」、「イエスとの関係」「聖霊との関係」、
この文章をお読みになる方々にとっては、これらの「関係」は繰り返す必要がないでしょう。主との「相互内在」の現実の中にある。このような「関係」は、明らかです。

さぁ、今日、進むことにおいては、この**相互内在の関係の奥義**を心に留めたということが前提です。よろしいですか。ちょっと混乱してきたなと思ったら、もう一遍、相互内在のところに戻って見て下さい。

次に、“サタン・悪霊・世の様々な霊力”、こういった領域との関係ですがこれもすでに多くの真理を私たちは得ています。「**サタンの策略を見破り、悪霊どもを追い出す**」などという**回復**は、今までは当然のことになりました。ですからこの関係についての知識も今、ここで繰り返す必要はないでしょう。ただ、御国のすべての関係の中で、ことさら**個人レベルの“悪霊追い出し“や”宣教上の地域レベルのもの“**が強調され、そう言った権威の行使だけがイエスの信仰を行使することであるかのように考えられがちです。しかし、「関係」であるところの「御国」全体から見れば、**それらはごく一部分である**ことが分かります。後の集会で黙想する予定の「神の国の秩序」の成熟度合いによって、「関係」についての啓示はさらに深まっていくことになるでしょう。

「サタンとの関係」「サタン・悪霊の追い出し」については、またいつかね。「なんだ、それが聞きたかったのに・・・」と言う人がいますか。「残念でした。またね」(笑)。でも、少し話すとね、パルーシアが濃厚になっていくと、昔と違うんです。皆さん、悪霊やサタンが、ところかまわず、うろうろして、ちょっとチンピラの霊たちが、私たちの足をぴょんとひっかけてくる。そうやって、ちょっかいを出してくる。でもね、それよりも、もうちょっと強い悪霊たちがやって来て、「どけどけ、ここにいるんだったら、所場代、出せよ。」ってね、そんなふうにやって来る。なんか、言いがかりをつけてくるやつらが、それだと思う。

だけど、**我々自身が、ちょっと変わってくればどうですか。本当に「相互内在」の中で成熟してくれば、どうですか。相手は、相手で、「相手を見て」やって来ます。**「こいつ、ちょっと、やれば、へこむな。」と、思うから来るんでしょ。

あのね、パルーシアの深い臨在の中で、私たちがサタン・悪霊に向かうということは、向こうが、我々に、ちょっかいを出して、戦う場所を、突っつく場所を彼らは選ぶんじゃあないですか。ですよね。こっちが、悪霊達に戦う場所を、こっちが選ぶんです。「このところの、ここのところを、もうちょっと清めてやらんといかん」と言うことでしょ。だから、ここをちょっと、掃除するから、どけよ。」「ここは、お前たちのいるとこじゃあ、ないじゃんか」と、口に出すまでもなく、睨むだけで良い。**だから、こっちが戦う戦場を選ぶレベルになるんです。**1：15：08.86

それなのに、いつまでも、ちょこまか、ちょこまか、小さな、小さなゲリラ戦に時間とエネルギーを費やすことはない。なぜなら、**我々が、パルーシアの中で、成熟していくからです。**もう、去年と、違うんです。2024年は、そこに、手を伸ばしましょう。もう一歩、もうひと皮剥いで。はい。

⑯東京キングダムセミナー20240113

パルーシアの、**「キリストの再臨」と言う概念**をどういうふうに、しっかり持つかと言うことを、・・・これね、やっぱり、いつか、1回2回だけでなくて、聖書の初めから、預言書を通しても、いっぱいある。そして、新約の中にも、どう受け継がれているか、その目線でね、聖書を確認するところを、ぜひ、持ちたいと思います。

そんな難しいのは、やりたくない？「もう、結論だけ聞かせてよ。私、それでいいわ。」と思われますか。そんなところでしょうか。「あの人が、こう言ったから、」とか、「あの先生が言ったから」と言うレベルで、歩んでいるから、私たちは、すったもんだ、するんです。**「なるほど、聖書は、こう言ってる」と、自分が直接かみ砕いていったら、自分の血となり肉となるんじゃないですか。**凄いですよ、聖書のこの件について言えば、凄いですよ。・・・ハイ、もう、前半の最後になりました。ここまでで、何か、質問、コメント、ありますか。1：18：14.54

「一人一人、個人個人、ばらばらでもいい、ただ、礼拝の時に集まり、祈祷会に集まり、宣教の時に集まるんだぞ」という、で、何かをしようとする。「わぁー」っと、何かにとりかかろうとするんですけれど、そんな目に見えた行為や奉仕や作業というものの根底に、我々がどういう関係性を、「主の体の中に持てるか」という、その土台を築かれることが、「キリストの体を築く」ということになるのです。

「一つ作業が出来ているからいいや」じゃあないんです。主との関係がわかってきたように、我々の向かいにいる人、隣にいる人、兄弟姉妹達とのその関係性の中に、新しい光と、啓示と、今まで見えなかったものが見えて来るか否かが大切なんです。

これまで、預言が与えられて、「あなたは、こうこうこうですよ。」と言われたりした。そしたら、「あ、そうなのか」と、自分が新しい、何かこう、目から鱗が落ちたように、**新しい「自己認識」が出来る。そして、「自分を新たに見つめ直す」というきっかけになっていきます。**

だから、「個人的にあなたに預言をしますから、今から聞いてください」という、そんな仰々しくなくても、普通の交わりの中で、それを交換することも出来るわけでしょう。してきたんですよ。我々も。1：20：46.02

私もしています。**普通の交わりの中で、互いに語らい、その中に私のセルフイメージが自分自身との関係を主の光によって修復して、自分自身の中に解き放つことが出来るんです。**人間と言うのは、我々、みんなそうだけれど、生まれてからこの方、いや、生まれる前からその人に、固有のものが植え付けられていて、それをよく「親のを受け継いでいるわ」とか、「先祖からのものだ」とか言われたりする。

また、一つの苦労したことによる「傷」といったり、「癖」と言ったり、なにかの「反動」と言ったり、心の中の性格の中に「こぶ」があると言ったり、・・・そういうふうなものが、自分自身の中にあるんです。みんなそうですよ。いい所もあれば、そういう癖のあるところがあるわけです。

それがゆえに、我々はついつい自分を表現して、行おうとする時に、それがひっかかって、それが出てしまったり、あるいは、自分を出せなかったり、抑え込んでしまったりするんです。親との関係の結果かもしれない。父親であるかもしれない、母親であるかもしれない。おじいちゃん、おばあちゃんかも知れない。また、

⑯東京キングダムセミナー20240113
もっと他の関係かもしれない。みんなありますよ。**ありますけど、どこが自分の「しこり」なのか、どこが「自分の御霊によって励まされ、御霊によって光が与えられている部分なのか」と言うのを、我々は、本当に深く見えて来る時が来るんです。**1：22：37.35

私も自分ながら、何回もあった。「あぁ、これがなぁ、・・・」と、誰にも言わないけれど、しみじみそれを思い、**そのことについて、主に問う。**それである時は、自分の中で悶々としてどうしようもないから、ある指導者に、信頼できる方に「こうなんですよね。」と、若い時に言った事がある。「こうなんですよね、だから苦しいちゃ、苦しいんですよね。」と、そういうふうに、皆さん、自分の本当の根っこの固い部分を打ち明けて、共有してもらえる人を持っていますか。そういう兄弟姉妹の関係がありますか。主は、その人も、備えて下さっている。

そしたら、その為に一緒に立つ。勿論、それをどうしたらいいかが、二人に分かってないとどうしようもないけれどね。で、そうして、自分たちは、癒され、身軽になっていく。しこりも解け、「たんこぶ」もへっこんでいく。そして、自分自身の光り輝いた部分を、祝福するんです。自分で。解き放つんです。檻に閉じ込めておかないで。

でも、そうはいってもね、そういう預言を聞いても、結構な人たちが、それを言われたままに置いているんです。いいですか、言われたら、言われたらで、吟味して、ちょっとづつでも受け入れることを、・・・自分に馴染んで溶け込んでいったら、自分でそれを掴んで用いないと駄目なんですよ。預言は、成就しませんよ。
何でも言われたら言われっぱなしで、ポーッとしてほっといて、何にもしないで、これまでと同じ調子で生きるから、「ああ、預言貰ったけど、何にもならないわ」と。そう、言いますよ。

預言を聞いたら聞いたで、責任があるんです。聞く耳のあるものは聞きなさい。「自分自身との関係」というものを活性化しましょう。「いいよ。」私はこんな人間だから、・・・」「いいですよ、私、こんなんだから」と言う。何が「・・・だから」ですか。そこのところは、自分自身の中に「相互内在」があって、その自分自身を認識する時の自分自身との関係性に、「神の国」があります。それを解き放ちましょう。

ハイ、前半をこれで終わります。

後半 0：00：29.17

ハイ、それでは、後半に入ります。(94 ページ～)
「関係」である「神の国」というところに入っています。今日は全部いけないと思います。

95 ページ一の
【互いについての啓示を得る王権を行使】ところを読みます。

私たちはもちろん互いの氏素性を知っています。互いの経験や立場、性格や特徴を知っています。しかし今最も深く霊の目で互いを知るということが全く日常のことになる日々に、私たちは入ろうとしています。

たとえば、マタイ 16 章 13～20 節の“イエスとシモン”の「関係」をじっくり思い巡らしてみて下さい。このふたりの「関係」に「神の国」があります。

（マタイ 16 章 13～20 節）　さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれた時、イエスは、弟子たちに尋ねて言われた。『人々は、人の子を誰だと言っていますか。』彼らは言った。「ヨハネだという人もあり、エリヤだという人もあります。また他の人たちは、エレミヤだとか、また預言者のひとりだという人も言っています。」イエスは彼らに言われた。『あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の子キリストです。」するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは、人間ではなく、天にいます私の父です。では、私もあなたに言います。『あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。私は、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。』その時、イエスは、ご自分がキリストであることを誰にも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。

↑　最後に、イエスは、「わたしがイエスだと言って回りなさい。」とは、言ってない。『誰にも言ってはならない。』と言われた。何故ですか。考えてみて下さい。聖書のことばはみんなそうなんだけれど、分かるようで、なんかちょっと、モヤモヤするんだよね。それが、聖書でしょ。（笑）でも、そのモヤモヤが、すーっと、晴れて行く時がある。それ、感激だよね。そういう、経験を積み重ねていきましょう。

“ナザレの大工の息子“ということは、だれもが知ることが出来たイエスの知識です。また、ヨハネ、エリヤ、エレミヤかも知れないとは、イエスについて人々のできる最大限の創造でした。しかし、父なる神の叫びは、イエスが誰であるかについて、人々がもっと深くこれまで以上の啓示を持つことなのです。シモンはその啓示を持ちました。

↑彼がそれをイエスに告げた時、イエスはシモンに確証を与えました。それは、『父なる神があなたに与えた啓示だ』と。誰か他の人が言うから同調して「あなたはキリスト・イエスです。」と、告白するわけにはいきません。**たとえ全世界が反対しても、「確かにあなたはキリストです。」と、自分自身の霊にしっかり刻み込まれた不動の認識に至る必要があるのです。**

シモンは、人々によってではなく、父なる神によって、啓示を受けたのです。しかしながら、父なる啓示はシモンの側だけにとどまりませんでした。イエスは続けて、すぐさま言われたのです。『それならば、わたしもまたあなたに言います・・・。』すなわち、イエスの側でもシモンについての啓示を得ていたのです。

『あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。私は、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。』

これが、イエスが得たシモンに関する啓示でした。もちろん、これはシモンだけではなく、イエスに関してシモンと同じように啓示を持っているすべての者に対して、イエス自身が得ている啓示であることに違いはありません。しかし、ここで注目しているのは、シモンが持っているようなイエスについての霊の認識は、シモ

⑯東京キングダムセミナー20240113

ン側だけでなく、イエスもまた、シモンが誰であるのかと言う霊の認識を持っていたということです。どうか、これだけは、基本的に認識しましょう。あなたがイエスに向かって「あなたは私の主です。」と、告白した時に、イエスの方でも、「あなたについての認識」を持っておられるということです。

まず、第一に、イエスとあなたとの間で、この互いの啓示の交換があったでしょうか。あなたは「イエスは主です。」と言います。では、イエスはあなたにとって、どのような主なのでしょうか。主イエスについてもっと深い啓示を得る特権を、あなたは、持っているのです。

↑イエス様について、もっと知りたい。そうですよね。

一方で、神はあなたを『私の愛する子』と、呼んでくださいます。それでは、あなたはどのようで、どんな特徴のある"神の子"なのでしょうか。かつては、"神の子"になったということで満足でした。けれどもイエスにあって、神の子であることはもはや当たり前という域に達した時、私たちの霊はさらに深い互いの認識を求め始めます。次のレベルで活動するためには、その啓示が必要だからです。

どうですか。もうちょっと、読んでみますね。いい？

今話しているのは主イエスとあなたとのことですが、このみことばは、私たちが主との相互内在にあるなら、私たち信者同士にも同様の特権があることを示しています。このように、互いについての啓示を互いが持つという"王権"を、私たちは行使できるのです。

肉のレベル、あるいは自然のレベルにおいて、互いを知っている以上に、神の国の中で互いがどんなに貴重でユニークな存在であるのか、私たちは知る必要があります。御国の秩序の中で、彼は、何なのか。キリストのからだ、その家族の中で、彼女はどういう人なのか、私たちは御父からの啓示を得ることが出来るのです。

相手に対する肉・魂の次元での願望や期待ではなく、霊の次元からの、相手のそのままの姿を常に持っていたいものです。人間の肉や魂による啓示ならば、その人の変に思われるわずかな言動でつまづいて、イメージも熱意も枯れ果ててしまいます。しかし、霊の内にやって来た神からの啓示ならば、枯れ果てません。相手がその啓示と正反対の状態に現在あったとしても、霊の啓示に基づいて、預言し続けるでしょう。0：10：50.78

このイエス様がシモン・ペテロに「あなたがたはわたしを誰だと言いますか。」シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の子キリストです。」　ね、この会話は、よく聞かれています。でも、ここでの重要なポイントは後半にあって、「このことをあなたに明らかに示したのは、人間ではなく、天にいます私の父です。」と、言われた。父の働きなければ、あなたは、わたしがだれだかわからない。このレベルで、私もあなたに言います。『あなたは岩です。ペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。』と言われた。

これは、ペテロが、このナザレのイエスが誰かと言うことを天の父から啓示を受けているという、「その土台の上に建てる。」と言っているんです。互いが互いを知るということの土台があって、・・・その上にキリストの体が建て上げられていく。それで、「ハデスの門もそれには打ち勝てません。」と言っているのです。

⑯東京キングダムセミナー20240113

そして、**『私は、あなたに天の御国のかぎをあげます。何でもあなたが地上で関係を結ぶものがあるなら、それは天においても結ばれます。あなたが関係を解くもの・・・関係を切るものがあったら、それは天でも切られます。』** 何と言う、【王権】でしょうか。0：13：28.94

ペテロが、どんな関係性を人々の間で、結んでゆくのか、ということに焦点を当てています。この意気込みを、この重さを受け止めましょう。

だから、**ペテロは、それ以後、新約の教会の中で、あらゆる信者である兄弟姉妹の間で、その関係性を慎重に紡いでいったと思います。**その様子が、手紙の中に、リアルに出て来るのです。

皆さん、聖書を読む時、本の聖書を読んでいると思いますけれど、時々、スマホで読む人いるでしょ。私も最近、仕事の休憩の時とか聖書を持っていない時、スマホで読むんです。これ、ちょっと、感動なんです。「なんだ、そんなこと、分かっているわよ。」と、皆さん、言われるかもしれませんけどね。アプリによるんでしょうけど、この"聴くドラマ聖書"のアプリは、本の聖書のように、ずらぁーっと、続けて書いてなくて、1節1節が区切られて書いてあるんです。1節1節が横書きで、1節が区分けされて、次々出て来るので、**1節1節を、スクロールしながら丁寧に読んでいけるんです。なので、本当にその節が言っていることが、目に留まって、で、納得して次に行くという読み方が出来て、それを読んでると物凄くハッキリとよく分かる時があるんです。**ですから、「これまでの読む習慣っていうのは、恐ろしいもんだな」と。自分が慣れている読み方ではなくて、一つ一つ、「あぁ、なるほどなぁ」と、留まりながら、進めていける。本の聖書で読んでいるのと違って「良く分かるなぁ」と、最近、感動しています。**ギリシャ語でたぐって読む、ヘブライ語でたぐって読む、のと、同じ新鮮さがあります。**（笑）だから、「あっ、日本語でも、これ出来るじゃん。これ、新鮮じゃない」と、思った次第です。

面白いよ。スマホで読んでたら、いつの間にか、"ガラテヤ書"はあっという間に終わる。だから、"ガラテヤ書"が、まとまって、ぱっぱぱっと、要点が頭の中に入ります。だからね、皆さん、一つの「書」をいっぺんに読んだ方がいいよ。部分的なところだけ言われたから、ここ開こうじゃあなくて。はい、だから、ここ**ピリポ・カイザリヤの地方に行かれた**・・・という、これも、ずらーと書いてあるでしょう。でも、もっと区切って、一つひとつを、「あ、なんでこういう言い回しなのかな」と思いながら、・・・また、「ここ、なんかモヤモヤするな、この言い語って何よ」と思いながら、やっていくと、あとで、内なる御霊があなたの目を開いてくれる時が来る。ここを知りたいなと思って、願いを持って、次に行けばいいんです。

参加者：みことばを砕いて、自分のものになっていくというのは、そういう、繰り返しなんでしょうか。
先生　：そうです。で、それもいっぺんに「ぱーっ」と、霧が晴れた感じでなくてもいいんです。少しづつ、「あ、そうかも」「あ、ここかも」と思うのが、積み重なっていくんです。
だから、今のところでも、**"天にいます私の父が、これをあかししたのだ"**と、言うことでしょ。

それから、父とイエスとペテロの関係性の中に話が進んで、「うんー、なるほどね」と、そしたら、「天の御国の"かぎ"って、何だろう？」と、ここでモヤっと、来るじゃない。「何のかぎよ。」「何を開け閉めするのよ」と、モヤっと来たら、次、何ですか。**「あなたが地上で、何でもつなぐなら・・・」ということは、繋ぐか繋が**

ないかの【かぎ】なんでしょ。で、何を繋ぐのよ。その互いの「啓示の関係性」と、なっていきませんか。――――これが、私がモヤッとして、また、それを思い続けて、霧が晴れた時の見方でした。――――

「あなたは、どうですか」「それ違うよ。もっと、こうじゃあないの。」という開かれ方って、当然ですよね。だから、私のが最終「ファイナルアンサー」ではないですよ。誰が言っても、どんな人が言っても、「私のがファイナルアンサーです」と、言い切ってしまう人は危ないよね。まだ、神はもっと奥義を話すことが出来るお方です。そういうふうに、主の啓示をやり取りして、「関係性」を豊かにしていって下さい。ハイ。

あなたが、イエスに「あなたは、私の主です。」と言うその関係の中に、イエス様も『私の愛する子よ。あなたは、私の体の中のこれ、これです』と。「あなたの特徴はこうですね。」と、主は、知っておられる。あなたは人とその「啓示の関係性」を結んだら、それは、天にも通じることです。それが、神の国の【かぎ】だと言っている。じゃあ、これを、いっぺんに3000人の人にやるかというと、さっきの休憩中の話じゃあないですけれど、出来ます？3000人と。（笑）3000人でなくていいのです。**本当に、隣にいる一人と始めればいい。この人と思う人から、始めればいいのです。**24：11.14

それから、その**「関係を解く」ということも、並行して言っているのが、面白いね。**繋ぎっぱなしじゃあないんだね。「解く」、もう「関係を切る」という「王権」。この辺が、センセティブに、じっくり思い巡らしながら、発揮できていますか。**「案外、ぞんざいに、周りにいる人と、たたずんでいませんか」ということになります。丁寧に生きていきましょう。** 26：35.88

98ページ上の段から読みます。
このような完全な啓示を持つにいたるのは、メンバーそれぞれが相当の成熟に至った時であることは言うまでもありません。（肉と魂と霊との瞬別。そのようなことが大切だということは、前にも言いました。肉的なままで、啓示がどうのこうのということは、言えません。）それは、「神の子」としての発達段階によります。ですから、「神の子の発達段階」という話題で、いずれ学びと黙想の時を持つことになるでしょう。とにかく、人は自分が見えている神の国の巾でしか相手を図ることが出来ません。ですから、その人の持っている神の国の啓示が狭く部分的なものならば、その狭い領域でしか相手を理解することが出来なくなるのです。神の国を求め、そのひろさ、深さを知ることは、私たちが互いをより深く知ることに繋がります。夫は、自分の妻について啓示を持っているでしょう。また、妻は夫をどのように見ているのでしょう。親は子供たちの一人ひとりに、神が創造した個性を見ているでしょうか。牧者は、教会メンバーの一人ひとりに、啓示を持っているでしょうか。28：19.80

↑だから、牧師さんという名札は、牧師さんという役職が書いてあるから、牧師さんだと、思わねばいませんよね。宣教師と言ったら宣教師、伝道者と言ったら伝道者。そうです、そのレベルはそのレベルで、大切なんですよ。
けど、もう一歩、奥に進むと、この方は、確かに私の牧者だ。といえる深い啓示が必要です。その啓示が無くて、ただ牧者ということだから、ということで、交流していることが間違っているのかと言うと、そうじゃあないです

よ。当然それでいいんです。そういう、秩序がありからね、それはそれでいいんですけれど、**私たちは、心密かに、主との王権の内在を発揮しないと、深くなりません。互いにそうです。それを、探し求めて、主から啓示を求めて、我々兄弟姉妹同士で、ああ、この方は、この人は、この姉妹は、この兄弟は、「こうなんだな。」ということを自分の内側を発見していかないといけない。**「皆がそう言うからそうなんでしょ。」じゃあなくて、自分も「確かにそうだな。」という深みの部分で、・・・ね。

だから、**その人が見えたら、その人が見えた分量を自分で信仰を発揮出来る量で、その人を祝福するんです。**見えてもいないのに、なんだかんだと言って、言葉で飾って祝福しなくてもいいんです。見えた分で、自分の信仰の使える分量でいいんです。その知る人を福福する。

ハイ、では、その次行きますよ。98ページの真ん中。

確かに出会ってすぐに得られる場合は少なく、多くの場合、その人のことを思いつつ、父なる神と共に長い日々を過ごす事でしょう。その人と語り合う前に、その人について、神と語り合うのです。何か月、何年と祈りと黙想の時が続くかも知れません。私たちが互いに養い、成長するためには、こういう年月を必要とします。

つまり私たちは決して直接的に相手に向かうことはできないということです。兄弟に何かを語る時、兄弟にダイレクトに語る前に、兄弟のことについて主と語り合うことが必要です。厳密に言うなら、兄弟について、イエスの中で父なる神と語り合うのが先だということです。そこで、啓示を得た後に初めて、自分の得た啓示の分量だけを兄弟たちに語ることが許されているのです。私と兄弟の間には、常に神が立っておられます。

皆さんにも、もう、いくらかこういう経験がおありの方が、おられると思います。私もあります。長いこと付き合っている人がいます。で、よく電話で話をするんです。「どうしているの？」と、近況を話して「どうだ、こうだ」って言ってね、で、**すこーしづつ、少しづつ、幼い状態から、霊的な認識の中で、深まっていく。それに、1年、2年とかかる場合があるんです。**ね、だから・・・人間である自分は、「もう、ね、・・・しびれが切れる時がありませんか」「もう、いい加減にしてよ。また、そこ？」（笑）と、思う時があるでしょ。皆さんも。話していてね。でも、笑っていてはいけないよ。自分も誰かから、そう思われているかもしれないんだよ。（笑）ね、

でも、「もう、この人ったらいつもこうだな」と、あなたもそう思われている。で、私たちもそう思う時がある。いいですね。**でも、自分の肉としては、しびれを切らして、じれったくなって、「あぁ、・・・」と思うんです。**でも、その人とともに、主との相互内在に留まると、不思議とね、その人の貴重な部分、神が造った、ピカッと光る部分を見せられる時がある。そうすると、こっちがドキッとして、「あぁ、そうだった」と言って、悔い改めるわけよ。**（笑）「ああ。そうだった。ああ、そうそう。」「そうじゃった、そうじゃった」と言って、**また新たにその人のいいところを祝福して、語らうわけです。そうやって、進んで行くわけです。
それならと、ある時聞いてみたら、その方もこっちに対して、「浅原先生に言ったら、こればっかり言われるなぁと思っていた」とか、「浅原先生が見ているのは、ここばっかりだなと思っていた」と、言う訳よ。

互いにもっと深く話していくと「あぁ、そうか、そういう、もっと、奥を言っていたんですね。」って、言われるわけよ。ね。**そうしたら、「互いの啓示が、進展したな」と言って、一緒に褒め合うわけよ。(笑)**

だからね、時間がかかります。相手が問題だけじゃあない。こっちの目が開かれるのも必要なんです。そのように、我々には、「主」が私と彼との間にいる。そして、我々両方に、「啓示」を与える。その人について分かるように、目を開かれようとしておられるんです。37：38.84

だから、自分の肉の思いで、「こうあって欲しいんだ、あんたには。」「もっと、こうなれよ。」と言って、いきなり言いたい時があるんだけれど、そこで言っちゃう時があるんだけれど、(笑)・・・確かにね。でも、それは後で本当に反省させられる。「言っちゃたけれど、良きに変えられることを、信じます」とか、言ったりして、(笑)、勝手なもんだよね。でも、本当に、静かに主の中で、私と彼とのたたずまいをただすわけよ。

それは、インスタントにできないし、時間がかかるし、忍耐が必要です。聖書の中でパウロが、「**忍耐、忍耐**」って、言っているでしょう。「**忍耐し合いなさい**」とか、「**お互い優しいものとなり、・・・思いやりなさい。**」と言っている。そんな言葉がね、手紙の中に、やたら多いいと思いませんか。日本人の感性からすれば、あったり前じゃん。私たち、いつも親切にするのは、当たり前だから。相手に失礼にならないように気を遣うじゃあないですか。**だけど、そのレベルとは、ちょっと違う。生まれ持った魂のレベルではなくて、主の中にある者同士としての魂と聖霊に根ざした鋭い魂のレベルなんです。パウロが、「本当に心の優しいものとなり、忍び合い、忍耐し合いなさい、赦し合いなさい」**って、盛んに言っています。

日本人はそれを読んで、「そうかそうか」で通るけれど、さっき言ったように、あの・・・さっき言った、スマホのアプリの”聴くドラマ聖書“で、一節一節、読んでみたら、**パウロのことばが、胸にしみるから。「おっと、そのレベルで言っているんだな。」と、分かるから。明日から読んでみて下さい。**「手紙の書」を1書。全章読む。その手紙の書を全部読むのよ。「えぇ？！」って言わないで。**ほんと、ビックリするように、自分の中が開けてくるから。**気に入った所だけを開いて読むんじゃあないのよ。(笑) だからね、忙しかったら、無理です。これ、心定めて、ああ、この時間これ読んじゃおう」と、決心して、目を開いて、この「御国の啓示」・「王権による関係」を心に思いを留めて、腰を据えて、1節づつ読んでごらん、メッチャ、新鮮よ。「こういうこと言っているのか」と言ってね、そりゃ、今までね、パーっと読んできたところ、こんなのあんまり大事なところじゃあないなと思う。そんなことをいっぱい感じて来たけれど、**一節一節が、生きてくるから。**

そうですよ。**自分の中で、どれだけ自分の王権と信仰を使って読む**かどうかです。まぁ、聖書のこの本を読んでもいいんですよ。でも、いつもそれで読んでいるから、読むそのスピードとかが、平気で早くなっていっていて、習い性になっているでしょ。私は、スマホで聖書をあんまり読んでなかったから、最近特に思う訳であって、一つひとつ読むと、**この説に書いてある事が、「あっ、なるほど」「あぁ、そうか」「あぁ、だから…」と言って、一つひとつ確認していけて、それを、ずーっと読んでいったら**、一章じゃあなくて、一つの書を読んでいってた。「あぁ、ローマ書って、凄いわ」と思うわけよ。ね、この経験してます？ (笑) だから、いやいや、やるんだったら辞めときなさい。しぶしぶやるんだったら駄目。自分の腹を決めて、「よし、この時間、

今、小一時間あるぞ。じゃあ、やってみよう」と思って、信仰を使って、王権を使ってやらないと。自分の肉と魂の惰性で、「聖書を読まなきゃあ」と思うから、結局、みことばが自分に入らないのです。（笑）そうでしょ。祈る時だってそうでしょ。礼拝するって言ったって、肉と魂の惰性で、「礼拝しましょ。」と言うのと、**自分の腹の中で「今から礼拝の時を持とう」と自分の腹を組み立てて、信仰を使ってそこに向かうと、違うんです。**もともと、集団で礼拝するということは、そういうことでしょ。「時間だからみんな集まれー。やりましょう。」と言って、そうじゃあないですよ。個人でも。044：26.65

はい、では、続きを読みます。98ページ、真ん中あたり。
確かに出会って、すぐに得られる場合は少なく、多くの場合、その人のことを思いつつ父なる神と共に長い日々を過ごすことでしょ。

↑**その御霊のうちに在って、相互内在の中で、生きた時を紡いでいくという、その習慣性、それが自分の中で、一つひとつ確立していって、生きて行くようにしましょう。**何十年とクリスチャン生活をしている人は、特に気を付けましょう。クリアーにしましょう。これら全部の話は、キングダムセミナーの前半にあった、「**相互内在**」という、深い奥義の上で言っていますよ。そうでなければただの「行」になりますから。

98ページの一番下の段を読みます。
私たちは親しいから、家族だから、夫婦だからと言って、直接的に結び合わされているのでは決してないのです。これが主との「相互内在」にある者たちです。つまらなく感じますか。水臭く思いますか。これは寂しい関係でしょうか。**いいえ、これが真の一致への「鍵」なのです。肉と魂から来る一致への欲求に、終止符を打つことなのです。**

↑私はそのように組み立てられて変わってきたとしても、相手は全然、そんな事を知らない。なんにも思ってない。（笑）**そういう人を相手に、「どうすんのよ」と言って、また、自分以外の人のせいにしたくなる。**「周りがどうであろうが、あなたのそばに居る人がどうだって、そんなの…その人のことをつべこべ言うことはない。」「あなたは、あなたのすべきことを、あなたの心を使うべきところに使いなさい。」ということを言っています。

これが「行」でなくて、無理強いでなくて、楽しく面白く、喜びを持ってできるようになること。それが、「相互内在」を得たものの道ですよ。さっき言ったように、**自分の心で、あきれてしまうこともある。腹が立つこともある。しびれを切らすこともある。**でも、でも、・・・それは、自分の心の巾が、ぐいーっと、開かれるようになるため、自分の心が練られるため。自分の見方が、広げられ、深められるようになるため、そのように味わって、感謝していくことです。

そしたら、チラッ、チラッと、相手の光る物が見えてきて、喜びになり、楽しみになって来る。近所の中でも、近所でも職場でもいい。今、仕事知るって言うことはね、もう、四角四面の厳しいことを言われて厳しい

⑯東京キングダムセミナー20240113

よね。昔は、・・・私の30年前、40年前の仕事はと言ったら、まだね、ホンワカしていた。「そんな細かいこと言わんで宜しい」と言って、もう、ずるい、ずるい言い逃れをされてきたけど、・・・今の我々の仕事ったらなんですか、「ここまで言うか」と思うほどの微に入り細に入り、凄く図られ、追及されていくんですよ。それだけ、もう厳しくなっているんです。若い人が、「先生、今仕事をしているこれも、患難ですかね」と。(笑)それに対して、私、声が出ませんでしたよ。「あぁ、あなたがそう思うんだったら、患難でしょう」と言ったんですけれどね。厳しいです。50：06.51

じゃあ、患難と言うものが来る。厳しい現状が来る。戦争のうわさが来る。国が国に敵対し、民族は民族に逆らっていく。「そんな苦しい時代があるか」と言うと・・・じゃあ、中世の時代にひどい時があって、今、回復だというけれど、パルーシアの時代が、濃厚になればなるほど、じゃあ、その患難が「見えなくなるか」、「無くなるか」と言うとはありません。

おそらく、キリストの体が成熟していけばいくほど、その体によって、世が裁かれるわけですから、ダニエル書の預言のみことばの中にあるように、・・・これも、また旧約の詳しい学びの中で、ダニエル書を学べばいいけれどね。51：03.92

いいですか、「**裁きを下すのは、人の子の体、聖なる聖徒たちにその権威が与えられた**」と、書いてある。つまり、サタンにとっては、パルーシアの中で、残りの民がキリストの体として、神の体として、成熟して貰ったら、サタンは自分たちの息の根が止まるのを知っているから、余計に暴れまわり、脅かし回りますよ。

だから、「我々は回復の時代だから患難はありません」と、私は言っているのでは、けっしてありません。もっと、極致の中で厳しいものになっていくでしょう。地震の話も聞くでしょう。疫病も起こるでしょう。経済的にも、もっと苦難が来る。では、なぜ、そんなに獣が荒れ狂うのかと言うと、その原因は、神の子のいと高き方の聖徒たちの体が、築きあがって来るからです。むしろ、キリストの体が、建て上がることが、患難を呼び起こすと言ってもいい。試練を呼び起こすと言ってもいい。だから、神の子共たちの行く末が、関わっているんです。52：34.84

私たちは患難の中を逃げ回って、「早く、携挙してください。連れていって下さい」と、「もう、逃げたいと、言いたいんです」と、言うことを叫ぶために生かされているんではない。神の子たちの成熟が、建て上げが、そこに起こって来るという望みの中にあるから、我々は患難が起こっても、恐れずにその中を御国に向かって突き進んで行けるんです。究極な御国に向かって・・・。その為に、今、我々が神の国の中に、歩まされているんです。

我々の内にある御国が、我々の内に現れて、もっと現れて、互いを結びあわされて、啓示によって結び合わされていく。関係性の中のリレーションシップの中にある絆の中に、建て上げられているその頭は、イエス・キリスト。その先に行った極致に、世の終わり、すなわち、「完成の時」があるのです。54：13.64

⑯東京キングダムセミナー20240113

99ページの初めの段のところから、読みます。

何としばしば個人的願望と期待を持って、私たちは兄弟にダイレクトに向かうことでしょうか。あるいは、兄弟のことで、神の前に静まって、得たわずかばかりの啓示に、自分の願望をミックスして、どれだけ大胆に、兄弟の前に立っていることでしょうか。

「あなたを愛します、祝福します」と言いながら、どんなにか自分の魂を兄弟に押し付けていることでしょう。それは、祝福する事ではなく、呪うことです。その人を解き放ち自由にすることではなく、束縛し支配することです。人が、人の心を支配することを、神は決してお赦しにはなりません。“互いについての啓示を持つ”という「王権」を真剣に行使し始めたなら、“人を祝福する”ことと“支配する”ことが、紙一重であることに気が付き始めます。また、“愛されていることの平安”と“支配されていることの平安”が錯覚されやすいことを知り始めるのです。幼いころを除いて、これらの混同と錯覚を神は解き放ってはおられません。55：55.13

↑私はキングダムセミナーを長くやらしてもらっています。元々は火曜日のラインだけでやって来ました。私の自分の部屋で机の前に座って、スマホを前において、ちまちまと、寂しく誰の顔を見ることもなく、たまに聞こえて来る声と向き合っておりました。「皆さんの応答する表情が見たいな」といつも思ってやってきました。でも、見えません。(笑)

でも、渾身の思いを込めて、話してましたけれど、・・・だんだんと、何人かの人達を知るようになって、lineで話して、あるいは通話で話して、それで、お互いを知るようになってきました。けれども、「もっと、皆さんと向き合いたいと思っています」と言っても、なかなかね。「ラインの皆さんと、いつ会えるかな」と思いながら、いつもやっています。それから、「コメントが欲しい」「あなたの応答が欲しい」といつも内側で呼びかけながら、やっていました。

今はこうして、ラインの皆さんとも語らいますけれども、対面で出会って、もう一年以上になりました。そうすると、電話でも話しているし、対面でも話していて、また、他で集まったりもしているじゃあないですか。そうしたら、より深く知ることが出来ます。そうすると、段々と、私の方に、語ってもいい、話してもいいことが、分かって来る。そうすると、本当に、キャッチボールと言うか、・・・そういうことが出来るようになってくる。

ですから、互いのうちに在る神から来た思いを聖霊の思いを私たちは遠慮なく交換し合いましょう。それを、交わりと言う。コイノニア（ギリシャ語で交わりの意)。それが私たちの共同の歩みとなる。普通の「ああだったよ。こうだったよ。」と言う世間話もあるのだけれど、けど、その中に自分の中に、大切な御霊との思いを我々は、解き放つのです。

その人の中に、あなたの内に見た者を、私は祝福を込められる分、解き放ちます。そしたら、「よっしゃ、それ貰った！」と言ってください。(笑) そんなふうに言わないか。アーメン！その通りになります！

良く「今日の集会が祝福されますように」って、言ってくれるじゃあないですか。私、直接、言うか言わないかは別にして、それを聞くたびに「よっしゃー！貰いました」といって、それでいくんです。解き放つのも貰うのも信仰です。アーメンですか。アーメン。1：00：09.71

給料もらったら、昔は、札が封筒に入っていたんだよ。昔は、ねぇ。で、「給料渡します」といって、札束貰って、・・・札束じゃないな。(笑) ボーナスの時なんか、少し分厚くなっているのを貰うじゃあないですか。

（笑）そしたら、貰う時にどうでしたか。「**よっしゃー！貰ったぞ！**」と言って、「これであれが買える」「これで家賃払える。余るぞ」と言う。…それと一緒です。「人に祝福します」と言われといて、「あ、ありがと」と、・・・それだけかい。「よっしゃ、それ、貰った」そうやって、大きくなっていきましょう。（笑）

はい、99 ページの真ん中の段を読みます。

急ぐことはありません。また、一度に大勢の兄弟姉妹たちについての啓示を得ようと焦らないようにしましょう。身近な一人からで充分です。「今回、これを完璧に行使しましょう。」と言うのではなく、「神の国」という“関係”（神の支配する状態）の一つの特徴に、私たちは、目を止め始めたに過ぎないのです。私たちの心にこのみことば（ピリポ・カイザリヤマタイ 16：13 が成就する部屋を作ることから、ほんとうの変化が始まるのです。

今日、これを聞いたからって、この後すぐにできるかと言ったら、出来ません。そんなことを駆り立てられなくてもいいのです。再臨の話のように、1 回聞いてぱっと開けるか、と言ったら、そんな事はありません。ゆっくりです。でも、**ちょっとその前味をなめて、「ああ、これかな、これじゃあないかな」と、思いながらやってみましょう。**

参加者：このみことばが成就する「部屋」と言うのは、ピリポ・カイザリヤ・・・マタイ 16：13 から 20 のことですか？
先生　：うん、そうです。究極的になみことば、**神の聖句を指すなら**ね。」
参加者：「この部屋」とは、啓示を受けるための部屋ですか？
先生　：うん？この部屋は、何部屋かと言うことを聞いてるの？（笑）そうですよね。**自分の心の中に、こういうことが出来るという部屋が、・・・隙間がありますか？「こんなの、もう受け入れるもなにも、やってみようとする、そういう隙間も余裕もありません。」と言うなら、部屋がない。**そうしたら、無理です。無理に押し込めるのは、・・・ね。だから、じっくり、実践して見れる、こういうことが出来る自分になれるという、そういう箱がありますか？と言うことです。

一番、身近なことで言うと、例えば、・・・子供が生まれるじゃあないですか。皆さん、家族に子供がいる人、子供に名前を付けようとするじゃあないですか。「この子供に、どんな名前を付けたらいいの？」と、言う時、こういうことが役に立ちます。

「この生まれる子供って、どんな性質？」と言われても、まだ、分からないじゃあないですか。見てないし育ってないし、しゃべってないしね。**でも、主との中で、今度生まれる子の子は内側に、光と啓示が来る。**この子はこういう子だ。まだ育っても居ないのに、**ぽっと、心に光る時がある。**その名前を付ければいい。

みんな、親たるものは、「あれにしようか、これにしようか」名前の辞典をぺらぺらめくるんだけれど、まだ、生まれてくる赤ちゃんは真っ白だから、親は自分の願望をつけたりしますよね。「健康であれ」とか、「成功するように」とか、それも親の願望で自分の中から来たものでしょ。

そうやって名付けるからね。でも、**自分の中の御霊がこれから、次の世代を歩むこの子は、主が、何をこの子に期待して生み出そうとしておられようとしているのか」ということを、**聞く耳があったら、主はそれに光を与えて下さいます。

それが、人間の肉・魂の願望ではなくてさ。それもいいよ。私もそれで、そういうふうに付けられたんだから、（笑）親から。いいけど、人のことはどうでもいい。これから生まれる人に。

それを、今度、兄弟姉妹と付き合って行く時に、「ああ、この人は凄いなぁ。主にあって、光るな。」と、思うところを、みんなに見れたら、私たちは、どんなに楽しいことか。

だから、「よっしゃー！」、あの人にもこの人にもと思わなくていいんです。心密かに、もう、人の見えない密かなところで、我々は、王権を培うものとなりたいものです。それが、本物になっていきます。

種は、小さいんです。皆さん御国の種は、目に見えないんです。でも、だんだん育って、大きくなって、誰も否定できない位、実がなるんです。その皆さんの内側にあるその神の国のみことばの種を祝福いたします。解き放ちます。

神が祝福されたいのちのことばです。種です。それが、自分の中にあるんだという、それをしっかり握っていきましょう。

来月は、【人を赦す王権の行使】のところに入ります。みんな深くて、内容の深い物ですので、通り一遍のものではありません。どうぞ、心深く受け止めていきましょう。では、このレベルで、心を合わせましょう。